



# 元気アップみのり

2015年(平成27年)  
コスモス号

発行 NPO 法人元気アップみのり  
住所 〒678-0052 兵庫県相生市大島町 3-4  
電話 0791-22-1330 Fax 0791-22-1347

## 深まりゆく秋に…

10月、昼は真夏日のような天気が続いてカラカラになりましたが、11月に入ったら雨続きでした。皆様、体調にお変わりありませんでしょうか。でもこの秋雨が上がると、急に寒くなって来そうな気配です。そろそろ冬の準備にもとりかからねばなりませんね。どうか暖かくしてお過ごしください。



澄み切った秋の空と揺れるコスモスの花

## 「就職活動支援」のとりくみについて…

私たちの作業所は就労継続支援B型施設ですが、工賃向上のための取り組みだけでなく、企業等への就活支援も行なっていることを紹介します。

今年に入ってから姫路キャッスルホテルにて2月と9月の2回にわたり「障害者雇用促進の集い」が開催されました。この集いは、約40社を越える参加企業と就労を希望する障害者との合同面接会で、私たちの作業所からも職員同行のうえ、それぞれ1名の利用者が参加しました。初めて参加した2月の時は、会場全体の騒がしさと熱気に圧倒されてしまった面接までは至りませんでした。9月の集いではなじみの深いある企業との面接が実現しました。結果はNGでしたが、利用者にはきびしくとも貴重な経験になったと思います。



もうひとつは赤穂の就労支援センターの紹介で龍野市のある独立行政法人の求人(障害者枠)に作業所から利用者2人が挑戦したことです。職務はデータ入力と清掃・洗濯。2人も作業所で経験済みでしたから思い切って応募しました。しかしパソコンの実技が難関だったようでともに残念な結果となってしまいました。

また、神戸の総合リハビリテーションセンターからの企業職場体験の募集にも利用者1人が応募、相生駅前のホテルでロビー清掃の実務を2日にわたって体験しました。このようにチャンスに対してはいずれも積極果敢に挑戦したものの、よい結果は出せませんが、これに屈せず今後とも地道な努力を重ねていきたいと考えています。

## 追悼

大前 正義 (享年 72)さん

10月30日かねて入院中だった大前正義さんが脳血栓のため亡くなりました。大前さんは会社を定年退職されてから脳梗塞がもとで言語障害になられ、



平成19年に私たちの作業所に昨年ハーベキューで羅漢の里に行った時の大前さん入所されました。会話には不自由な思いをされたことでしょうか、いつも穏やかな表情で作業所の仲間と接して来られ、皆から慕われていました。四季の折々には奥様との旅行に出かけるのを楽しみにされ、いつもお土産を持って来て下さいました。告別式には作業所からも多くの仲間が参列し、大前さんのまだ早すぎる死を悼みました。大前さん、さようなら。

一同、心からご冥福をお祈りいたします。

## 特別寄稿

### 「わたしの息子」

私の息子は脳こうそく(梗塞)をわずらってから、もうすぐ半年近くになります。縁あって今年の五月一日から、みのり作業所でお世話になって



います。発症当初は2人でリハビリに通う悶々とした日々が続きましたが、今はひとりでリハビリに通っています。以前は自分の思うようにいかない時にイライラすることがよくありましたが、今は自分なりに物事を受け止められるようになりました。

家では洗濯やお風呂もわかしてくれています。通所しはじめた頃から比べると、とても穏やかで素直になったように思います。

お天気の悪い日は頭痛がひどい時もあるようですが、本人なりに考えて毎日30分ほど歩いて健康な身体を維持するように努めています。また月末に工賃をもらうようになって貯金も始めました。つらい時期もありましたが、今では楽しく明るい暮らしができるようになり、よかったと思っています。これも所長さんをはじめ作業所の皆さんやリハビリの先生、福祉関係者の方々のおかげと感謝しています。

中野 幸子

## 平成27年上期 運営委員会 を開催

9月28日、今年度上期の運営委員会が例年どおり市社会福祉課の横家係長、赤穂保健所の東さんをお招きし、利用者代表2人に理事・職員の計9名で開かれました。まず作業所からこの半年間の総括が、4月に実施された事業者報酬改訂について基本報酬は減額となったものの種々の加算措置を獲得したため従来の算定基準を上回る額を受給できたこと、ただ今回改訂の目玉であった職員待遇加算はサービス管理責任者は対象外という小規模施設に不利な仕組みのため利用できなかった旨が報告されました。また新規利用者の定着化が望まれるにも拘らず、特殊な障害をもった利用者については今の職員と作業の内容では個別対応が難しい現状が話されました。

方針としては当作業所の特長である、①少人数のアットホームな雰囲気、②市街地の恵まれた立地、③軽作業の安定した仕事の確保等を確認したうえで、①内向きの利にこだわることなく積極的に新しい仲間を迎え入れる、②市街地の利点を活かしてもっと地域との交流をはかる、③利用者の創意を活かせる多様なワークを取り入れることが課題として提起されました。

議論の中では、最近報道された障害者施設での虐待事件が話題に出て、施設の密室化を防ぎ地域に開かれた存在とするためにも市がすすめている第三者評価機構の診断を受けてはどうかなど、感想も含め多くの意見が出ました。

## 後編 集

もう記事を書くスペースがなくなったので写真だけ載せることにします。ご容赦を！



うれし恥ずかしのデカパン競走です